

4. 分科会活動

(1) 人材分科会・資金分科会

非営利セクターにおける人材の高齢化や後継者不足などの状況を踏まえ、人材確保・育成と多様な主体によるネットワークの形成をどのように行うかをテーマとして、学識経験者・企業関係者・NP0関係者・行政関係者をメンバーに迎え開催。

各回では、各分野で活躍するメンバーからの話題提供や、日本全国から社会課題解決に最前線で取り組むNP0法人等のプレーヤーをゲストスピーカーに招聘し意見交換を行う等、様々な事例研究等を通じてコレクティブ・インパクトについての理解を深めながら研究を進めた。

これまでの活動の総括として、令和3年秋頃に『コレクティブ・インパクトへの挑戦（仮）』（中央経済社）を上梓予定。

【開催概要】（第1回～第6回は合同開催、第7回以降は人材分科会として開催）

《第1回》

日時：平成30年7月2日

場所：大阪市役所5階副首都推進局会議室

議題：

- ・人材/資金合同分科会の進め方について
- ・コレクティブ・インパクトについて（情報提供）

概要：

- ・分科会リーダーの佐々木利廣氏（京都産業大学）より、人材・資金合同分科会の進め方について説明され、メンバー全員で確認された。
- ・多様なセクターから大阪発コレクティブ・インパクトへの挑戦を提案してもらいながら、抱えている課題や方向性を議論することを当面の人材資金合同分科会の活動方針とすることで合意
- ・第2回以降の分科会の内容や話題提供者について議論され、第2回は外部講師によるコレクティブ・インパクトについての座学、第3回は学識経験者、第4回～第6回は、NP0、行政、企業各団体参加者から分科会へ話題を提供することとなった。
- ・堀野亘求氏（大阪NP0センター）より「コレクティブ・インパクトとは」というタイトルで話題提供

資料：人材資金分科会の進め方、コレクティブ・インパクトとは

《第2回》

日時：平成30年7月19日

場所：大阪市役所5階副首都推進局会議室

議題：欧米におけるコレクティブ・インパクトの現状と日本への適用可能性について

概要：

- ・田中弥生氏（（独）大学改革支援・学位授与機構特任教授）から「Collective Impact (集合的インパクト)」というタイトルで講演
- ・コレクティブ・インパクトとして有名な事例である米国シンシナティのstrive together のケースを基に、5つの機能等について説明
- ・日本へのインプリケーションについて問題提起
- ・日本流コレクティブ・インパクトはどのような要素が必要かを議論。とくに人材の育成や持続可能な活動という課題を中心に議論することで共通理解
- ・エクセレントNP0大賞についての説明や話題提供

《第3回》

日時：平成30年9月11日

場所：関西大学梅田キャンパス多目的室

議題：国内ケースに見るコレクティブ・インパクトの可能性について

概要：

- ・学識経験者の3氏より、それぞれ国内の協働事例が紹介され、それを基に、日本における協働と欧米のコレクティブ・インパクトの共通点と差異について議論された。
- ・リーダーより、最終の取りまとめと議論の場を2月に開催することが提案され、分科会メンバーに合意された。

資料：

- ・協働とコレクティブインパクト（尾道市立大学経済情報学部准教授 後藤 祐一氏）
- ・Collective impact の論点 西宮LEAF ケースと先行研究から考える（関西大学商学部教授 横山 恵子氏）
- ・あねっこバスはコレクティブインパクトといえるか？（京都産業大学経営学部教授 佐々木 利廣氏）

《第4回》

日時：平成30年10月17日

場所：NP0法人Officeぱれっと

議題：NP0セクターにおける社会的課題解決に向けた取組みについて

概要：

- ・ NP0セクターの3氏より、それぞれの活動の経過や思い、ミッションについて報告後、NP0セクターとしての社会課題への向き合い方等について問題提起がなされ、議論された。
 - * 押栗泰代氏（マイママ・セラピー）より、ゆりかごタクシーとベビー防災の活動の経過と多様なアクターとの関連について
 - * 漆原由香利氏（officeぱれっと）より、子育て支援事業やあかり食堂など多様な事業展開の歴史と今後の展開について
 - * 堀野亘求氏（大阪NP0センター）より、大阪NP0センターのミッションや設立後の多彩な事業展開について
- ・ NP0セクターが抱えている大きな課題として事業の継承と人材育成の仕組みづくりの存在が大きいことを認識。

資料：特定非営利活動法人ぱれっと資料、認定NP0法人マイママ・セラピー資料

《第5回》

日時：平成30年11月5日

場所：阪南市役所別棟第2会議室

議題：行政セクターにおける社会的課題解決に向けた取組について

概要：

- ・ 行政セクターの3氏より、それぞれの社会的課題の解決に向けた取組事例や課題についての説明がなされ、議論された。
 - * 増田佑介氏（藤井寺市）より「コレクティブ・インパクトのイメージと課題」というタイトルで事例報告。コレクティブ・インパクトのステイクホルダーをスムーズに参加してもらうための内部情報共有と外部情報公開についての現時点でのハードルを提案
 - * 満井祐輝氏（阪南市）から「行政セクターにおける社会的課題と取り組みについて」というタイトルで社会的課題としてまちづくりの現状報告
 - * 小畠崇史氏（丹波市）から「そこまで木って委員会」というタイトルで報告。バックボーン組織としての委員会やつなぎ役としての役割の重要性を提案

資料：

- ・ コレクティブ・インパクトのイメージと課題（藤井寺市）
- ・ 行政セクターにおける社会的課題と取り組みについて（阪南市）
- ・ そこまで木って委員会（丹波市）

《第6回》

日時：平成30年12月11日

場所：大阪商工信用金庫本店2階ホール

議題：企業セクターにおける社会的課題解決に向けた取組について

概要：

- ・企業セクターの3氏より、それぞれのCSR活動等における取組みや事例について報告され、議論された。
 - * 宮高豪氏（セイコー運輸）より、自社の高齢者向け引っ越しサービス事業の現状や全国の事業所と連携したビジネスモデルのヨコ展開について事例報告
 - * 南貴美子氏（大阪ガス）より、NPO法人南大阪子育て支援ネットワークとの協働事業について事例報告
 - * 山本高久氏（大阪商工信用金庫）より、自社のCSRの考え方、CSR理念を実現するために金融を通じた多様な地域づくりの取り組みと、人と人とのつながりによる多彩な地域づくりの取り組みを報告
- ・NPOセクター・行政セクター・企業セクターの結び役になる人の特徴や役割をまとめながら、そうした人材の育成をどのように進めていくべきかを考えることになった。

資料：大阪商工信用金庫資料、セイコー運輸株式会社資料、大阪ガス株式会社資料

《第7回》

日時：令和元年6月3日

場所：谷岡学園梅田サテライトオフィスCURIO-CITY(グランフロント大阪)

議題：

- ・コレクティブ・インパクトにかかる参考事例について
「コレクティブインパクトから見た福井県池田町の事例分析」
(大阪商業大学公共学部公共学科専任講師 中嶋 貴子 氏)

概要：

- ・大阪商業大学公共学部公共学科専任講師中嶋貴子氏より、「地域活動組織の発生に関する事例研究：ソーシャル・イノベーション理論に基づく分析」について説明され、出席者による質疑や意見交換等を行った。

資料：

- ・地域活動組織の発生に関する事例研究：ソーシャル・イノベーション理論に基づく分析
- ・(商大論集191-192記念号) リンク先URL：<http://id.nii.ac.jp/1297/00000788/>

《第8回》

日時：令和元年7月25日

場所：谷岡学園梅田サテライトオフィスCURIO-CITY(グランフロント大阪)

議題：

- ・コレクティブ・インパクトにかかる参考事例について
「雇用を手放し、オフィスを手放したまちづくり組織の8年間」
(一般社団法人鹿児島天文館総合研究所Ten-Lab理事長 永山 由高 氏)

概要：

- ・一般社団法人鹿児島天文館総合研究所Ten-Lab理事長 永山由高氏より、「雇用を手放し、オフィスを手放したまちづくり組織の8年間」について、事例紹介が行われ、出席者からの質疑や意見交換等を行った。

資料：雇用を手放し、オフィスを手放したまちづくり組織の8年間

《第9回》

日時：令和元年9月2日

場所：大阪市役所地下1階第5共通会議室

議題：

- ・コレクティブ・インパクトにかかる参考事例について
「京都祇園祭ごみゼロ大作戦におけるコレクティブインパクト」
(きょうとNP0センター副統括責任者 内田 香奈 氏)

概要：

- ・きょうとNP0センター副統括責任者 内田香奈氏より、「京都祇園祭ごみゼロ大作戦におけるコレクティブインパクト」についての事例紹介が行われ、出席者からの質疑や意見交換等を行った。

資料：祇園祭ごみゼロ大作戦におけるパートナーシップ

《第10回》

日時：令和元年10月21日

場所：関西大学梅田キャンパス KANDAI Me RISE

議題：

- ・コレクティブ・インパクトにかかる参考事例について
若者UPプロジェクト～若者支援領域におけるコレクティブインパクト型アプローチの実践～ (Co-Work-A. LLC 育て上げネットプロジェクトサポートオフィス コンサルタント 田中 成幸 氏)

概要：

- ・Co-Work-A. LLC育て上げネットプロジェクトサポートオフィスコンサルタント 田中成幸氏より、「若者UPプロジェクト～若者支援領域におけるコレクティブインパクト型アプローチの実践」についての事例紹介が行われ、出席者からの質疑や意見交換等を行った。

資料：

- ・「若者UPプロジェクト～若者支援領域におけるコレクティブインパクト型アプローチの実践～」

《第11回》

日時：令和元年11月11日

場所：谷岡学園梅田サテライトオフィスCURI0-CITY(グランフロント大阪)

議題：

- ・コレクティブ・インパクトにかかる参考事例について
「CI立ち上げ支援の現場から見えてきた学びと課題」
(合同会社喜代七代表 山元 圭太 氏)

概要：

- ・合同会社喜代七代表 山元圭太氏より、「CI立ち上げ支援の現場から見えてきた学びと課題」についての事例紹介が行われ、出席者からの質疑や意見交換等を行った。

資料：コレクティブインパクト立ち上げ支援の現場から見えてきた学びと課題

《第12回》

日時：令和元年12月9日

場所：谷岡学園梅田サテライトオフィスCURI0-CITY(グランフロント大阪)

議題：

- ・コレクティブ・インパクトにかかる参考事例について
「コレクティブ・インパクトの進化」
(尾道市立大学経済情報学部准教授 後藤 祐一 氏)

概要：

- ・尾道市立大学経済情報学部准教授 後藤祐一氏より、「コレクティブ・インパクトの進化」について説明され、出席者による質疑や意見交換等を行った。

資料：コレクティブ・インパクトの進化

《第13回～第14回》

日時：令和2年10月5日、令和2年12月23日

場所：オンライン開催

議題：これまでの分科会活動をふまえた著作物の編集について

概要：

- ・これまでの分科会活動をふまえた著作物の編集について、分科会メンバーが分担して原稿を作成のうえ、意見交換を行った。
- ・編者3人が分科会メンバーからの原稿を編集しながら最終章のまとめの内容について意見交換を行った。

佐々木利廣・横山恵子・後藤祐一編著

『コレクティブ・インパクトへの挑戦』（仮）

中央経済社

【目次】

第1章 コレクティブ・インパクトへの注目

1. 社会課題の解決とコレクティブ・インパクト
2. コレクティブ・インパクトの代表的ケース
3. 米国でのコレクティブ・インパクトの広がり
4. 米国でのコレクティブ・インパクトの評価と進化
5. おわりに

参考文献

第2章 コレクティブ・インパクトの成立と進化

1. はじめに
2. コレクティブ・インパクトとは何か？
 - 2.1. コレクティブ・インパクトの定義と5つの成功要因
 - 2.2. コレクティブ・インパクトとパートナーシップ，コラボレーションとの相違
3. コレクティブ・インパクトに関する議論の発展
 - 3.1. コレクティブ・インパクトのプロセス
 - 3.2. バックボーン組織
 - 3.3. コレクティブ・インパクト2.0からコレクティブ・インパクト3.0へ
 - 3.4. コレクティブ・インパクトに関する学術的な関心
4. おわりに

参考文献

第3章 日本でのコレクティブ・インパクトの普及定着に向けて

1. はじめに
2. 日本でのコレクティブ・インパクト推進論と消極論
3. コレクティブ・インパクト普及定着の罫
4. 日本における萌芽的コレクティブ・インパクト

参考文献

第4章 企業の社会的課題解決に向けたコレクティブ・インパクト

1. コレクティブ・インパクトの概要
 - 1.1. 多様な価値を育むコレクティブ・インパクト
 - 1.2. UR社とコンポスト
2. コレクティブ・インパクトの目的とプロセス
 - 2.1. コレクティブ・インパクト前半（協働創出ステージ）

- 2.2. コレクティブ・インパクト後半（ビジネス展開ステージ）
 3. コレクティブ・インパクトへの想い
 - 3.1. （特非）北芝の想い
 - 3.2. CRN研究チームの想い
 4. コレクティブ・インパクトでの学び
 5. コレクティブ・インパクトの成果
 6. コレクティブ・インパクトとしての特徴
- 参考文献

第5章 創発を取り込んだコレクティブ・インパクトの発展

1. はじめに
 2. 事例分析のポイント
 3. 第1のコレクティブ・インパクト：ビューティーキャラバン事業
 4. 第2のコレクティブ・インパクト：りびボラ事業
 5. 分析：第1から第2のコレクティブ・インパクトへ
 6. さいごに：第3・第4のコレクティブ・インパクトに向けて
- 参考文献

第6章 ソーシャル・エンタープライズによるコレクティブ・インパクト

1. はじめに
 2. 再犯の現状と社会課題の所在
 3. 株式会社ヒューマンハーバーの設立
 4. 三位一体の支援事業
 - 4.1. 産業廃棄物リサイクル事業
 - 4.2. 宿泊支援事業
 - 4.3. 教育支援事業
 5. 九州大学との協働と「ユヌス・ソーシャル・ビジネス」としての経営
 6. コレクティブ・インパクトに照らした特徴と課題
- 参考文献

第7章 コレクティブ・インパクトの創出とバックボーン組織の形成過程

1. はじめに
 2. 事例分析：福井県今立市池田町の概要と課題
 - 2.1. 池田町の人口及び財政課題
 - 2.2. 地域によるこれまでの取り組み
 3. 民間組織の発生過程と経緯の検証
 - 3.1. 池田町役場
 - 3.2. 株式会社まちUPいけだ
 4. ソーシャル・イノベーション理論に基づく分析
 5. おわりに
- 参考文献

第8章 社会的課題解決の展開とコレクティブ・インパクト形成

1. 若者UPプロジェクトとは
2. 若者UPプロジェクト立ち上げの契機
3. 若者UPプロジェクトの目的
4. 若者UPプロジェクトの事業プロセス
5. 若者UPプロジェクトの成果
6. コレクティブ・インパクト型の取組としての特徴
 - 6.1. 共通のアジェンダ：多様なプレイヤーを繋ぐビジョンとアプローチ
 - 6.2. 共有された評価システム：成果を測定するための尺度を揃える
 - 6.3. プレーヤー間のシナジー：多様性を活用する
 - 6.4. 継続的なコミュニケーション：信頼関係を醸す
 - 6.5. 活動に特化した「支柱」となるサポート：縁の下の力持ち（事務局）の重要性

第9章 企業によるコレクティブ・インパクトの実践

1. 高齢者向け引越サービスの誕生
2. 全国の中小運送事業者にサービス拡がる
3. 行政との関係の構築と壁
4. 政府の施策を理解し誕生したサービス
5. 一般社団法人住むーぶ全国協議会の誕生
6. 今後の期待
7. 協議会として活動をしていくうえで理解している外部環境
8. 大阪への波及効果
9. コレクティブ・インパクトの5要素からみた住むーぶ全国協議会の課題

第10章 NPOによるコレクティブ・インパクトの実践

1. はじめに
2. 救いたいと思う人がいつもそこにいるから
 - 2.1. なぜ「ゆりかごタクシー」は必要だったのか
 - 2.2. 発信のはじまり
 - 2.3. 発信内容の中に想いのたけを詰め込んで
3. 事業遂行に必要な主要組織とメンバーの集結をめざして
4. 運行開始から拡大に向けて
5. 社会に認知された仕組みをめざして
6. 未来へ向けて滋賀三方良し」のモデルとして発展を
7. おわりに

第11章 企業の社会貢献によるコレクティブ・インパクトの実践

1. はじめに
2. 南大阪子育て支援ネットワークの概要
3. コレクティブ・インパクトで共同子育てを進める社会的背景
 - 3.1. 児童虐待の状況
 - 3.2. 女性の就労支援の状況

- 3.3. 「子育て」を地域の真ん中に置いて見えてくる課題
4. 南大阪子育て支援ネットワークの設立と活動のプロセス
5. なぜコレクティブ・インパクトを目指していくのか
6. おわりに

第12章 コレクティブ・インパクトにおける評価

1. 各ステイクホルダーの活動動機の多様性
2. 日本におけるコレクティブ・インパクト
3. 何のために評価するか
4. どんな評価指標が必要か
 - 4.1. コレクティブ・インパクトの組織体制に対する評価指標
 - 4.2. 目標に対する成果に対する評価指標
5. まとめ

第13章 コレクティブ・インパクトのための組織

1. はじめに
2. 多様な主体の集合の動態
3. アドボカシー、フレーミング
4. イシュー・ネットワークと政策コミュニティ
5. 集合的活動の先行分野
6. 組織間連携の変動とバックボーン組織
7. バックボーン組織の性質
8. バックボーン組織の発生パターン
9. 今後のコレクティブ・インパクトとバックボーン組織

参考文献

第14章 コレクティブ・インパクトを支える人材の育成

1. はじめに
2. バックボーン組織を支える人材の特性
 - 2.1. コレクティブ・インパクトとソーシャル・イノベーション
 - 2.2. ソーシャルセクターを担う人材の特性
 - 2.3. システム思考
 - 2.4. 社会的企業家特性
 - 2.5. 社会ネットワークの構築と承継
3. バックボーン組織における人材育成
 - 3.1. NPOの事業承継と人材育成
 - 3.2. 行政による人材育成
4. バックボーン組織の人材育成への示唆と今後の課題
 - 4.1. バックボーン組織を支える人材に求められる要素
 - 4.2. 今後の課題：ソーシャルセクターの人材
5. バックボーン組織の発展に向けて

参考文献

第15章 コレクティブ・インパクトの可能性

1. コレクティブ・インパクトの事例の解釈
 - 1.1. 事例の整理
 - 1.2. 本書の事例からみるコレクティブ・インパクトの特徴
2. コレクティブ・インパクトの本質と可能性
 - 2.1. 尖った協働とソーシャル・アントレプレナーシップ
 - 2.2. 社会性と個の自律
 - 2.3. 計画性と創発性
 - 2.4. 共感のシステム化
 - 2.5. 越境的学习と共進化
3. 社会の縮図としてのコレクティブ・インパクト
 - 3.1. 混沌とした社会課題の坩堝としての社会の縮図
 - 3.2. クロスセクター協働の場としての社会の縮図
 - 3.3. 俯瞰的志向としての社会の縮図

参考文献

企業側からのコレクティブ・インパクトへの期待

NPO側からのコレクティブ・インパクトへの期待

行政側からのコレクティブ・インパクトへの期待

『コレクティブ・インパクトへの挑戦』執筆者一覧

佐々木 利 廣	京都産業大学経営学部教授（第1章、第3章、第15章3）
大 杉 卓 三	京都産業大学経営学部准教授（第6章）
横 山 恵 子	関西大学商学部教授（第4章、第15章2）
吉 田 忠 彦	近畿大学経営学部教授（第13章）
小 室 達 章	金城学院大学国際情報学部教授（第5章）
後 藤 祐 一	尾道市立大学経済情報学部准教授（第2章、第15章1）
中 嶋 貴 子	大阪商業大学公共学部公共学科専任講師（第7章、第14章）
押 栗 泰 代	認定NPO法人マイマ・セラピー理事長（第10章）
堀 野 亘 求	敬和学園大学人文学部共生社会学科准教授（NPOからの期待）
南 貴美子	大阪ガス株式会社地域共創部門近畿圏部ソーシャルデザイン室（第11章）
宮 高 豪	セイコー運輸株式会社代表取締役（第9章）
山 本 高 久	大阪商工信用金庫常務理事（企業からの期待）
増 田 佑 介	藤井寺市役所市民生活部 協働人権課協働推進担当（第12章）
満 井 祐 輝	阪南市役所事業部都市整備課（行政からの期待）
田 中 成 幸	NPO法人育て上げネット（第8章）

民都大阪フィランソロピー会議 人材・資金合同分科会

2018年度のまとめと次年度の予定

分科会リーダー
佐々木利廣(京都産業大学)

2018年度人材・資金分科会の活動目標

- ・「関西(大阪)発コレクティブ・インパクト(CI)への挑戦」がキーワード。
- ・ 関西(大阪)発コレクティブ・インパクトの実現のための関西の強みや課題から解決策を提示。
- ・ 多様な主体によるネットワークをどのように形成するかが第一の課題
- ・ 非営利セクターにおける人材の高齢化や後継者不足などの状況を踏まえ、人材をどのように確保・育成するのかが第二の課題

人材・資金分科会の構成

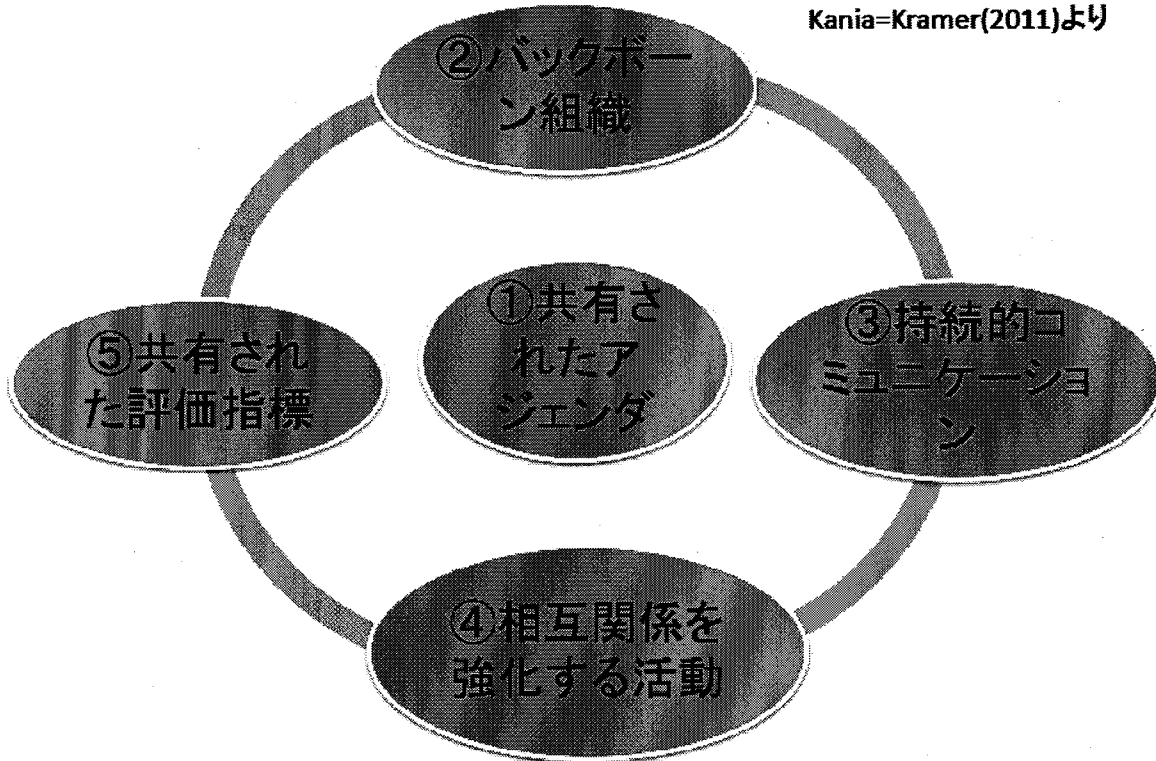
氏 名	所 属 等	備 考	
佐々木 利廣	京都産業大学経営学部教授	人材分科会	リーダー
大杉 卓三	京都産業大学経営学部准教授	資金分科会	リーダー
横山 恵子	関西大学商学部教授	人材・資金	学識経験者
後藤 祐一	尾道市立大学経済情報学部准教授	人材・資金	
吉田忠彦	近畿大学経営学部教授	人材・資金	
小室達章	金城学院大学国際情報学部教授	人材・資金	
中嶋貴子	大阪商業大学公共学部公共学科専任講師	人材・資金	
押栗 泰代	認定NPO法人マイママ・セラピー理事長	人材・資金	NPO法人 関係者
漆原 由香利	特定非営利活動法人NPOぱれっと理事長	人材・資金	
堀野 亘求	認定特定非営利活動法人大阪NPOセンター事務局長	人材・資金	
南 貴美子	大阪ガス株式会社地域共創部門近畿圏部 ソーシャルデザイン室	人材・資金	企業関係者
山本 高久	大阪商工信用金庫常務理事	人材・資金	
宮高 豪	セイコー運輸株式会社代表取締役	人材・資金	
満井 祐輝	阪南市役所事業部都市整備課総括主査	人材・資金	行政関係者
増田 佑介	藤井寺市役所 市民生活部 協働人權課協働推進担当	人材・資金	
小島 崇史	丹波市まちづくり部市民活動課副課長兼市民活動係長	人材・資金	

2018年度分科会での活動

No	日時	内 容	話題提供
1	7/2大阪 市役所	分科会予定とコレクティブ・インパクトについての共通理解	NPO担当者 1名
2	7/19大阪 市役所	コレクティブ・インパクトとして有名な事例である米国シンシナ ティのstrive togetherのケースを基に、5つの機能等について 説明	研究者 1名
3	9/11 関西大学	研究者3名による国内ケース(あねっこバス、LEAF、車粉)を 基にしたコレクティブ・インパクトの可能性について議論。	研究者 3名
4	10/17 オフィス ぱれっと	NPOセクターから話題提供(ゆりかごタクシーとベビー防災、 子育て支援、大阪NPOセンターのミッションや設立後の多彩 な事業展開)	NPO担当者 3名
5	11/5 阪南市役 所	行政セクターから各自治体での取り組み報告(コレクティブ・ インパクトの内部情報共有と外部情報公開、まちづくりの現 状報告、そこまで木って委員会)	行政担当者 3名
6	12/11 大阪商工 信金	企業セクターから各企業での取り組み報告(高齢者向け引 越しサービス事業、NPO法人との協働事業、CSRの考え方と 実現するための取り組み)	企業担当者 3名
7	2/16-17 古泉閣	分科会のまとめと今後の展開	研究者 1名

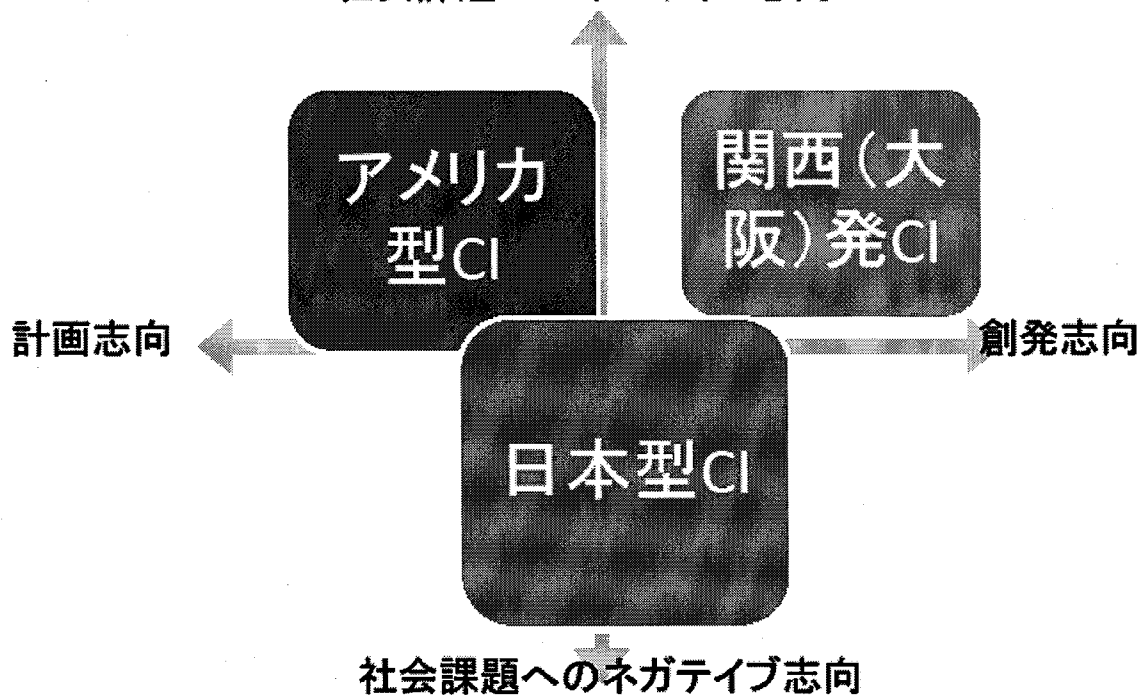
CIを生み出す5つの条件

Kania=Kramer(2011)より



関西(大阪)発CIの方向性

社会課題へのポジティブ志向 (横山先生レジュメより)



関西(大阪)発CIのイメージや進め方

- 教育課題や地域課題の規模や深刻さの違いからCIの進め方にも違い(待ったなしの米国とまだ余裕のある日本(関西)との違い)⇒関西では多様で創発的な取り組みが有効
 - 社会課題に対するスタンスは、悲観的かつ深刻というよりも能動的で挑戦的⇒関西では社会課題の解決をポジティブなチャンスとして見る方が有効(ソーシャルビジネス)
 - 関西流の個性(人情味やお節介、厚かましさ、ベタさなど)を前面に出したCIの可能性
 - 内向きの関西流の議論はむしろ逆効果であり、他の異質性との混じり合いの中で関西ならではのユニークさが生れる(たとえば海外との連携)
- 

既に福井県池田町など萌芽的取り組み

CIのつなぎ役の機能と人材

- バックボーン組織の条件やそこで働く人材の育成は関西発CIを構想する上で最も重要なポイント(資金人材合同分科会の喫緊の課題)
- 最適人材を考えるよりも、多様な人材の組み合わせ
- 特にプレーヤーだけでなくバイプレーヤー(脇役だが存在感のある人)の重要性
- つなぎ役としての人材のスキルやマインド、バックグラウンドの抽出と因数分解をもとに、つなぎ役育成に必要なプログラムを考える

2019年度人材分科会の予定(継続)

- 日本各地での萌芽的CIについての理解(ゲストスピーカーによる話題提供)
- CIを担うバックボーン組織や人材についての検討(候補者数名によるパネル討議など)
- 日本のCIのケース発掘とケース分析
- 欧米でのCIの最近の動きや課題のキャッチ
- 最終アウトプットはCIについての書籍出版(2020年度内)
- 第1回は6月3日(月)中嶋先生「CIから見た福井県池田町の分析」大阪商業大学

(2) 情報分科会

世の中には多くの組織があって、会社もあればコミュニティもあって、それぞれがIT化を必要としている。NP0法人の上には社団法人もあるし、NP0法人にはまだない任意団体やコミュニティというものもある。

一方、ITの世界では、ITの技術力があって、それを今の仕事以外にも使ってみたいという人が多い。またIT支援をしているNP0法人もある。また定年を迎えて余暇時間があるという技術者や専門家もこれから増えて来ると思われる。

そういう状況の中、情報発信力がさほど強くないNP0法人も多いことから、ICT等を活用した非営利セクターにおける効果的な情報の発信・共有手法の構築・普及を目指し、「民都・大阪」フィランソロピー会議のもとに情報分科会を設置する。

同分科会は、府内のNP0法人の情報化を推進するため、ITボランティア的な形で協力する。

まず、大阪やその周辺エリアに立地するNP0法人を対象として、抽出した20法人にアンケート調査及びヒアリングを行い、モデルケースとなる法人等を分科会メンバーに選任したうえ、分科会においてケースごとに情報発信方法の改善策を検討し、府内のNP0法人に改善事例・手法を展開することを目的とする。

【開催概要】

・ NP0へのアンケート及びヒアリング調査

NP0法人をポータルサイトからエリア別に検索すると、大阪府内に4,000以上ある。また、活動分野別で検索すると、「情報化社会」で6,000以上ある。ボードメンバーが、その中から情報発信に関心のあるNP0法人を20か所リストアップし、情報化に関するアンケート調査及びヒアリングを行った。

《アンケート項目》

アンケートは組織の規模を聞いたうえで、情報化に関する項目をいくつかのセグメントに分けて聞いた。

○組織、内部の人数、対象とする人や団体の数、コミュニケーション手段、内部での手段、外部との手段、情報共有手段、ウェブの管理、ITボランティアへの期待（業務システムについては、今後の課題とした。）

《アンケートの中間集計》

・コミュニケーション手段

内部での手段：メール、Chatwork、LINE、salesforce

外部との手段：メール、Google、Chatwork、salesforce、サイボーズ

情報共有手段：Google、Chatwork、salesforce、OneDrive、Dropbox

ウェブの管理メディア機能の強化、salesforceのカスタマイズ

・ITボランティアに期待すること

イベント等の情報発信、salesforceのカスタマイズ、個人データのIT化

ウェブの更新、SNSでの情報発信

【今後について】

- ・分科会を定期開催（月1回） → コロナ禍のため中断中
- ・アンケートの項目別に、専門家の講演、ディスカッションなどを開催
- ・大阪市の情報化指針作成時に構築した「oide-osaka.org」を使った情報発信
- ・アンケートで課題もわかったので、改めてIT化を必要とするNPOをリストアップする。